



## 説教要旨「救い主の光に照らされて」

マルコによる福音書 9章 2～10節

1週間前ほど前にイエス様から「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され…」(マル 8:31)との受難予告を告げられたペトロは、救い主がそんな惨めな運命をたどるはずがないと思い、師であるイエス様を諫めたために厳しく叱責されました。しかし今、彼の目の前でエリヤとモーセという旧約聖書に登場する2人の偉大な預言者たちが、白く輝いているイエス様と肩を並べて語っています。それこそがペトロが求めていた“救い主”の姿でした。これを目撃して舞い上がったペトロは、記念に小屋を建てようと言い出しました。イエス様が栄光に輝く姿のままで、エリヤとモーセと並び立っている光景を見たならば、長老、祭司長、律法学者たちもイエス様の前にひれ伏したことでしょう。ペトロは、その栄光に輝く救い主の姿を留めておきたかったのです。しかし、その栄光に輝く姿は隠され「これはわたしの愛する子。これに聞け」という声が響き、気がつくところにはもとどおりのイエス様だけがおられたのです。

わたしたちは、イースターにイエス様の復活をお祝いします。主は死に打ち勝たれた。もはや死ぬことは恐ろしいことではありません。わたしたちを愛して下さる神は、死の力さえも支配しておられることがそこに示されたからです。けれどもイエス様の復活は、イエス様の死がなければ成立しません。イエス様の受難、イエス様の十字架上の死をすっ飛ばして、復活の喜びに与ることはできないのです。イエス様の十字架を見つめること。それは自分の罪を見つめることです。わたしの罪のために、わたしの身代わりとして、イエス様が苦しんで下さり、十字架に架かって死んで下さったのです。

天からの声は、栄光に輝くイエス様にではなく、これから、権力者たちから排斥され、十字架にかけられて殺されていく、そんなイエス様の姿を示し、その言葉に聞くようにと促します。惨めに十字架へと歩まれるイエス様をこそ神の子と信じ、そのイエス様のみ言葉に聞き、その後に従うことこそが弟子たちに、そしてわたしたちに求められているのです。

(2022・3・27 説教者：稲垣真実)